

H23 年度科学・技術関係予算概算要求 個別施策ヒアリング

【施策番号 27005, 27006, 27133, 27134, 27136: 施策名 グリーン・サステイナブル・ケミカルプロセス基盤技術開発 (経産省)】

- 1 日時: 平成 22 年 9 月 15 日 16:55 ~ 17:50
- 2 場所: 中央合同庁舎 4 号館 2 階 第 3 特別会議室
- 3 聴取者: 相澤議員、奥村議員
外部専門家 8 名 (うち若手 2 名)
- 4 説明者: 製造産業局 化学課 機能性化学品室 福田敦史室長
- 5 施策概要

グリーン・サステイナブルケミカルプロセス (GSC) 基盤技術開発として、新規として 2 つの施策、化学品原料の転換・多様化を可能とする革新グリーン技術開発と次世代グリーン・イノベーション評価基盤技術開発、継続施策として、石油化学品の革新的製造プロセス基盤の開発、機能性化学品の革新的製造プロセス基盤の開発、半導体機能性材料の高度評価基盤開発、次世代蓄電池材料評価基盤技術開発の 4 つを実施している。

6 質疑応答模様

【相澤議員】

全体はやりとりをしていく中で良くなったが、個別施策説明は従来と変わっていない。プロセスの説明だけで、何が障壁となり、それをどう突破するのかについて記載がない。将来の目標はプレゼン資料から伝わってこない。

【経済産業省】

個別にバリアがある。出口から見据えた時のアプローチをとっている。例えば、有機 EL 等の評価基盤開発は着手すべき分野と認識。

【奥村議員】

シーズオリエントの施策になっている。どういう大きな政策課題を解決するのか、メッセージが伝わってこない。どう化学業界の課題を解決するかが見えない。

【経済産業省】

目標の 1 つは CO2 の削減。特にプロジェクト では、CO2 排出が最も大きい石油化学プロセスのグリーン化を目指している。P.36 にあるように 8000 万トンのうち 200 万トンの省エネ効果を目指している。

プロジェクト ではバイオマスに注目、ではハザード対策、ゴミ対策、廃棄物削減。では、標準化、国際競争力強化を目指している。

【大石審議官】

バイオマス 6000 億円の市場創出は石油のリプレイスだけの話か？

【経済産業省】

プロセスの省エネ、低コスト製造による日本の競争力アップを含めての数値。

【相澤議員】

木質バイオマスは AP で各省の役割を明確にした。バイオマスの原料として何を置く

のか、具体的、戦略的に原料転換を経産省として考えるべき。

以上